

# 巻頭のご挨拶

一般社団法人 北海道林産技術普及協会  
会長 高橋 範行



会員の皆さま、新年あけましておめでとうございます。2023年の新春を会員の皆さまとご一緒にお喜び申し上げます。

2021年の春先から始まった木材の供給不足と価格高騰 いわゆる「ウッドショック」は、2022年の前半には供給不足の懸念は薄らぎ、世界中から値は物を呼ぶ現象により逆に在庫がふくらみ、一部建築材ではだぶついている状態にまでなりました。需給のバランスを失し、全国の港湾倉庫に滞貨した製品は、コスト割れた価格で市場に出回ってきています。一方、木材価格は高騰前の水準までは戻っておらず、この先も、円安が定着してきている現状では元には戻らないと予測されています。しかしながら、下方調整は必然となってきました。私もこれまでの針葉樹製材の価格は安すぎたと感じていましたが、ウッドショックのピークで4倍となったのは行き過ぎで、2倍程度が最終的な居所と思っています。また、従来外国産に依存していた木材は、国産材（道産材を含む）自給率の上昇が端的に示すように、国産材を主体とする時代が来ることは間違いありません。昨年の巻頭言で述べたように、「国内の森林資源を、国内の企業が、国内での生産に利用し、国内で使用する」時代なのです。今年は、昨年の巻頭言を、更に希望を込めて「道内森林資源の道外への移出は極力抑え、道内企業が、道内での生産に利用し、そして製品は国内、さらには近い将来海外で輸出木材商品として評価される」時代、と言い換えたいと思います。そして、このような将来像に向け、普及協会は道内企業の生産現場の技術力向上に、ささやかであるかもしれませんが、これからも貢献していかなければなりません。

1953年9月に発足した普及協会は、今年2023年に創立70周年を迎えます。顧みれば、2003年の50周年では記念CD「50年のあゆみ」を、2013年の60周年では記念DVD「森林（もり）の国に生きる」を制作し、多くの関係者がそれぞれの視点で本道木材産業、そして普及協会の来し方を振り返り、次の10年を展望しました。ちなみに、「50年のあゆみ」の制作メンバーの一人が現林産試験場場長の岩田氏で、それから20年を経た今年、70周年に関わっていただけることに岩田氏と普及協会との深い縁（えにし）を感じます。また、前会長高橋秀樹氏の元で 斎藤副会長、山田常任理事には、「50年のあゆみ」および「森林（もり）の国に生きる」の両方に実行委員等として尽力をいただき、桑原常任理事、伊藤理事には50周年以前から11期22年間、協会役員を担っていただきました。ここにお名前をあげていない方々を含め、数多くの皆さまに支えられて70周年を迎えることができたことを感謝したいと思います。

70周年を期に、普及協会では二つの事業に取り組むことを計画しています。一つは、北森カレッジを通じた若き人材の育成支援であり、もう一つは道産木材の活用を進めるための調査研究の林産試験場への委託です。人材育成支援はこれから内容を固めていきますが、委託研究についてはすでに具体的な取り組みが始まっています。

委託する研究課題は「道内広葉樹資源の流通動向調査と製材用途の利用拡大に向けた中径木の材質評価」となります。この研究の背景には、地域資源を活用する指向の高まりなどから、家具や内装材をはじめとする多様な木材製品で北海道産広葉樹の利用が進められていること、しかし、広葉樹原木を利用するに際しての課題に、針葉樹人工林原木と異なり、特定の樹種を計画的に得ることは難しいことがあります。広葉樹利用者が道産広葉樹の活用を計画する際には、継続的に入手可能な樹種および量を見通すための何らかの手がかりが必要になります。また、今後、利用の主体となる中径広葉樹の材質が、天然林広葉樹を対象とした既存の文献資料と同じと扱ってよいのかについても、利用する上では関心の持たれるところです。そのため、中径広葉樹の材質・強度についての調査も実施予定です。これらの成果は、道産広葉樹活用の一助となるよう、来年2024年4月の講演会で広く発表する考えです。

今年4月の総会では住友林業株式会社筑波研究所・中嶋一郎氏によるご講演を計画しています。筑波研究所では、有用木の育種・育苗・育林技術、耐火性・耐候性を追求した高性能木質材料、中大規模木造建築技術、木や緑が人の心やからだに与える影響、など森林・木材を核とする多彩な研究開発が進められています。これら、「木を科学する」先進技術開発に関する講演をご期待下さい。なお、昨年、一昨年に実施したオンライン講演会を支持する声が多かったことから、今回もオンラインでの実施を予定しています。会員の皆さまのご参加をお待ちしています。

当協会は今年も林産試験場と企業の架け橋として、木材加工技術の向上とその普及に向けた活動を進めて参ります。皆さまのご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。